

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4785639号
(P4785639)

(45) 発行日 平成23年10月5日(2011.10.5)

(24) 登録日 平成23年7月22日(2011.7.22)

(51) Int.Cl.

H04N 1/387 (2006.01)

F I

H04N 1/387

請求項の数 8 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2006-168565 (P2006-168565)	(73) 特許権者	000001007
(22) 出願日	平成18年6月19日(2006.6.19)		キヤノン株式会社
(65) 公開番号	特開2007-336428 (P2007-336428A)		東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(43) 公開日	平成19年12月27日(2007.12.27)	(74) 代理人	100087446
審査請求日	平成21年6月19日(2009.6.19)		弁理士 川久保 新一
		(72) 発明者	安▲崎▼ 浩二
			東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
		審査官	白石 圭吾
		(56) 参考文献	特開2001-268486(JP, A)
		(58) 調査した分野(Int.Cl., DB名)	H04N 1/38 - 1/393

(54) 【発明の名称】 画像処理装置、画像処理方法、およびプログラム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の画像のうちの合成対象の画像を特定するための第1の画像と、ユーザが情報を付加するための第2の画像とを印刷装置にシートへ印刷させる印刷制御手段と；

上記印刷制御手段により印刷されたシートを読取装置が読み取って得られた読取画像を取得する取得手段と；

上記取得手段により取得された、上記第1の画像に対応する読取画像に基づき、上記複数の画像のうちの合成対象の画像を判断する判断手段と；

上記取得手段により取得された読取画像に含まれる、上記第2の画像が印刷されたシートにユーザにより付加された情報と、上記判断手段により合成対象と判断された画像とを合成して出力する出力手段と；

を有し、

上記出力手段は、上記判断手段により複数の画像が合成対象として判断されたときに、上記第2の画像が印刷されたシートにユーザにより付加された情報と、当該複数の合成対象の画像のそれぞれとを合成して、合成された複数の画像ごとに個別に出力することが可能であることを特徴とする画像処理装置。

【請求項2】

上記印刷制御手段により印刷される第1の画像は、合成対象の画像のそれぞれに対応する、ユーザにより付加される合成対象の情報を、ユーザに選択させるための選択領域を含み、

10

20

上記判断手段は、上記第 1 の画像が印刷されたシートに対応する読取画像に基づき、上記複数の画像のうちの合成対象の画像と、当該合成対象の画像のそれぞれに対応する、ユーザにより選択された合成対象の情報とを判断し、

上記出力手段は、上記判断手段による判断に従って、上記合成対象の画像と、当該合成対象の画像に対応する合成対象の情報とを合成することを特徴とする請求項 1 に記載の画像処理装置。

【請求項 3】

上記印刷制御手段により印刷される上記第 1 の画像は、上記第 2 の画像が印刷された複数のシートから合成対象のシートをユーザに選択させるための選択領域を含み、上記判断手段は上記第 1 の画像が印刷されたシートに対応する読取画像に基づき、上記複数のシートのうちのユーザにより選択されたシートを判断し、上記出力手段は上記判断手段によりユーザにより選択されたと判断されたシートに付加された情報を合成対象の情報として、合成対象の画像と合成することを特徴とする請求項 2 に記載の画像処理装置。

10

【請求項 4】

上記印刷制御手段により印刷される第 1 の画像は、上記第 2 の画像が印刷された複数のシートの上記読取装置により読み取られる順番を選択可能な選択領域を含み、

上記判断手段は、上記第 1 の画像が印刷されたシートに対応する読取画像に基づき、上記第 2 の画像が印刷された複数のシートのうちの、ユーザにより選択された順番に上記読取装置により読み取られたシートを、ユーザにより選択されたシートとして判断することを特徴とする請求項 3 に記載の画像処理装置。

20

【請求項 5】

上記判断手段により、合成対象の画像に対応する合成対象の情報が選択されていないと判断された場合、上記出力手段は、当該合成対象の画像の合成を行わずに、当該合成対象の画像を出力することを特徴とする請求項 2 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の画像処理装置。

【請求項 6】

上記出力手段は、上記合成対象の画像と上記合成対象の情報とが合成された画像を上記印刷装置に印刷させることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか 1 項に記載の画像処理装置。

【請求項 7】

複数の画像のうちの合成対象の画像を特定するための第 1 の画像と、ユーザが情報を付加するための第 2 の画像とを印刷装置にシートへ印刷させる印刷制御工程と；

上記印刷制御工程により印刷されたシートを読取装置が読み取って得られた読取画像を取得する取得工程と；

上記取得工程により取得された、上記第 1 の画像に対応する読取画像に基づき、上記複数の画像のうちの合成対象の画像を判断する判断工程と；

上記取得工程により取得された読取画像に含まれる、上記第 2 の画像が印刷されたシートにユーザにより付加された情報と、上記判断工程により合成対象と判断された画像とを合成して出力する出力工程と；

を有し、

上記出力工程は、上記判断工程により複数の画像が合成対象として判断されたときに、上記第 2 の画像が印刷されたシートにユーザにより付加された情報と、当該複数の合成対象の画像のそれぞれとを合成して、合成された複数の画像ごとに個別に出力することが可能であることを特徴とする画像処理方法。

40

【請求項 8】

請求項 7 に記載の画像処理方法をコンピュータに実行させるためのプログラム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

50

本発明は、ユーザがシートに付加した情報と、合成対象の画像とを合成して出力する画像処理装置、画像処理方法、およびプログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、アクセス可能な画像データに対して、画像選択領域と手書き可能な自由描画領域とを有するオーダーシートを印刷することが知られている（たとえば、特許文献1参照）。この印刷されたオーダーシートの画像選択領域の中から、1つの画像を選択し、自由描画領域に手書きまたは何かを貼り付ける等、ユーザが自由に作成することができるオーダーシートを記入する。この記入されたオーダーシートを読み取り、画像選択領域と自由描画領域とを光学的に読み取り解析する。この解析されたデータに応じて、選択された1つの画像データと、1つの自由描画領域とを合成し、出力する画像処理システムが開示されている。

10

【特許文献1】特開2005-244736号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかし、特許文献1記載の画像処理システムでは、自由描画領域に作成された部分を、選択された1つの画像にしか合成することができない。つまり、選択された画像と自由描画領域の画像とが1:1でしか、合成することができない。

20

【0004】

たとえば、年賀状の印刷等で、Aさんには、画像1を印刷、Bさんには、画像2を印刷し、合成する画像は一緒でもよいという場合を考える。その場合、2枚のオーダーシートを印刷し、1枚目のシートには画像1を選択し、自由描画領域を作成して読み込ませ、合成して印刷する。2枚目のオーダーシートには、画像2を選択し、1枚目の画像と同様の自由描画領域を使用して作成し、読み込ませ合成し、印刷する。しかし、この作業は、大変煩雑であるという問題がある。また、画像枚数が増えれば増えるほど、上記煩雑性が高くなるという問題がある。

【0005】

本発明は、ユーザがシートに付加した情報と、複数の合成対象の画像のそれぞれとを合成して、出力することができる画像処理装置、画像処理方法、およびプログラムを提供することを目的とする。

30

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の画像処理装置は、複数の画像のうちの合成対象の画像を特定するための第1の画像と、ユーザが情報を付加するための第2の画像とを印刷装置にシートへ印刷させる印刷制御手段と、上記印刷制御手段により印刷されたシートを読取装置が読み取って得られた読取画像を取得する取得手段と、上記取得手段により取得された、上記第1の画像に対応する読取画像に基づき、上記複数の画像のうちの合成対象の画像を判断する判断手段と、上記取得手段により取得された読取画像に含まれる、上記第2の画像が印刷されたシートにユーザにより付加された情報と、上記判断手段により合成対象と判断された画像とを合成して出力する出力手段とを有し、上記出力手段は、上記判断手段により複数の画像が合成対象として判断されたときに、上記第2の画像が印刷されたシートにユーザにより付加された情報と、当該複数の合成対象の画像のそれぞれとを合成して、合成された複数の画像ごとに個別に出力することが可能であることを特徴とする。

40

【発明の効果】

【0007】

本発明によれば、ユーザがシートに付加した情報と、複数の合成対象の画像のそれぞれ

50

とを合成して、出力することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

発明を実施するための最良の形態は、次の実施例である。

【実施例1】

【0009】

図1は、本発明の実施例1であるMFP100の回路構成を示すブロック図である。

【0010】

MFP100は、多機能周辺機器(Multi Function Peripheral)であり、スキャニング機能、プリンティング機能、コピー機能を併せ持つ機器である。

10

【0011】

また、MFP100は、CPU1と、ROM2と、プリンタ3と、SRAM4と、DRAM5と、イメージプロセッサ6と、イメージセンサ7と、操作パネル8と、ディスプレイ9と、PC I/F10と、PC11とを有する。

【0012】

CPU1は、MFP100のシステム制御部であり、MFP100の全体を制御する。ROM2は、MFP100のシステム制御プログラムを格納する。

【0013】

なお、CPU1は、ROM2に格納されている制御プログラムに基づいて、MFP100に関する各種の動作を実行する。このようなCPU1の制御プログラムは、ROM2に格納されているものに限らず、フロッピー(登録商標)ディスクやCD-ROM等による外部の記憶媒体に記憶されているものでもよい。また、これを専用の読取装置によって、MFP100のRAM(たとえばSRAM4)に取り込み、これをCPU1が解読し、実行するようにしてもよい。

20

【0014】

プリンタ3は、入力された画像データを記録紙に印字する。SRAM4は、主に、MFP100の登録データ等を格納するものであり、DRAM5は、主に、画像データを格納するものである。

【0015】

イメージプロセッサ6は、イメージセンサ7が入力した画像データに各種画像処理を施す。イメージセンサ7は、原稿上の画像を読み取る接触型読み取りセンサ等である。

30

【0016】

操作パネル8は、MFP100の状態等を表示するディスプレイ9を有し、オペレータからの動作指示入力や、各種データ登録や、ディスプレイ9を通じて、MFP100の状態を確認するものである。

【0017】

PC I/F10は、MFP100とPC11とを接続するインタフェースであり、PC11は、これを介して、MFP100の各種設定データ変更や各種動作の起動要求を行うホストコンピュータである。

40

【0018】

図2は、MFP100において、イメージセンサ7を含む画像読取部7aの概略構成を示す断面図である。

【0019】

画像読取部7aは、原稿セット位置21と、原稿検知センサ22と、紙パス23と、ADF読み取り位置24と、イメージセンサホームポジション25と、イメージセンサ26と、原稿台27とを有する。また、画像読取部7aは、原稿突き当て位置29と、白黒基準板21aと、原稿台圧板21bとを有する。

【0020】

画像読取部7aは、イメージセンサ26を移動させて原稿を読み取るフラットベット読

50

取部と、原稿を移動させて読み取るADF読取部とを有する。フラットベット読取部において、白黒基準板21aは、イメージセンサ26のシェーディングデータを生成するための基準板である。白黒基準板21aは、白色部と黒色部との2色の部分によって構成され、白色部下でイメージセンサ26を点灯または消灯させることによって、各色のシェーディングデータを取得する。

【0021】

原稿セット位置21に、原稿28をセットすると、原稿28がセットされたことを、原稿検知センサ22が検知する。原稿検知センサ22が原稿を検知すると、フラットベット読み取りは行わず、ADF読み取りを開始する。

【0022】

イメージセンサホームポジション25は、装置がスタンバイ状態であるときは、イメージセンサが常に待機している位置である。イメージセンサ26によって、原稿台27上に積載されている原稿28を移動しながら読み取る。原稿台27は、透明ガラスによって作られた原稿積載台である。

【0023】

自動給紙読取部に関して、シェーディングデータは、フラットベット読取部と同様に取得する。

【0024】

イメージセンサ26が、ADF読み取り位置24に移動し、原稿を移動させながら紙バス23に排出することによって、ADF読み取り位置24上を原稿が通過した際に原稿を読み取る。

【0025】

原稿突き当て位置29は、原稿台27上に正しく原稿を積載するための基準となる原稿28の先端を配置するための基準となる突き当て位置である。

【0026】

圧板21bは、原稿読取時に外光が入らないようにする蓋である。その内側は、白色シートで作られている。

【0027】

ADF読み取りが終了したら、イメージセンサ26は、イメージセンサホームポジション25に戻り、スタンバイ状態になる。

【0028】

図3は、MF P100で手書き合成シート出力指示があった場合に出力されるフォトナビシート30の一例を示す模式図である。

【0029】

図6、図7、図8、図9は、上記実施例の動作を示すフローチャートである。

【0030】

フォトナビシート30のレイアウトは、ROM2に記憶されているフォーマットに定義され、フォーマットにアクセス可能な画像データと合わせ込んで出力される。

【0031】

フォトナビシート30は、図6のステップS2で、手書き合成が指示されると、図3に示すように、印刷する用紙のサイズ、種類、オプション（日付印刷・自動写真補正・顔明るく補正・赤目補正）の選択をマークするためのチェックボックス31を備えている。アクセス可能な画像データに格納されているサムネイル画像32を表示している。

【0032】

ステップS3で、印刷するか否か、印刷するなら画像を何枚印刷するかを選択し、マークするチェックボックス33を備える。チェックボックス33で、画像出力枚数が、3枚までに限定されているが、枚数に関してはこの限りではなく、何枚でもよい。また、マーク方式で枚数を選択させる方法は、7セグメントを使用して枚数を書かせ、入力させる方法等、枚数指定手段もマークである必要はない。

【0033】

10

20

30

40

50

フォトナビシート30は、手書き合成シートを読み込んで画像を合成させるか否か、画像を合成させる場合、何枚目の手書き合成シートの画像を合成させるのかを選択するチェックボックス34を備える印刷用紙の給紙口（前面給紙か背面給紙）を選択させる。また、シートを読取らせる方法が記載されている領域35、シートの種類がフォトナビシート30であるのか、何枚目のフォトナビシート30であるのか等の情報をもったマーク36で構成されている。

【0034】

図4は、MFP100でフォトナビシート30または手書き合成シート出力指示があった場合に出力される手書き合成シート40の一例を示す模式図である。

【0035】

手書き合成シート40のレイアウトは、ROM2に記憶されているフォーマットに定義されている。手書き合成シート40は、何枚目の手書き合成シート40であるのか、シート番号を表示する領域41、ユーザが自由にメッセージを書き込むことができる自由描画領域42を有する。また、手書き合成シート40は、手書き合成シート40の何枚目であるのか、シートの種類が手書き合成シート40であるのかを示す情報をもつマーク43を有する。

【0036】

図5は、MFP100の操作パネル8の構成を示す図である。

【0037】

操作パネル8は、電源キー51と、メモリ使用表示LED52と、エラー表示LED53と、モード切替キー54と、給紙方法表示LED55と、ストップキー56と、カラースタートキーまたはモノクロスタートキー57とを有する。また、操作パネル8は、トリミング設定キー58と、コピー倍率設定キー59と、OKキー60と、ディスプレイ61とを有する。

【0038】

電源キー51によって、本装置の電源のON/OFFを行う。

【0039】

メモリ使用表示LED52が点滅しているときは、MFP100がメモリを使用していることを意味している。エラー表示LED53が点滅していれば、MFP100がエラー状態であることを意味する。

【0040】

モード切替キー54は、MFP100のスタンバイ状態を、コピーモードまたはスキャナモード等、モードを切り替えるキーである。

【0041】

給紙方法表示LED55は、前面給紙側が点灯していれば、前面から給紙することを意味し、背面給紙側が点灯していれば、背面から給紙することを意味する。

【0042】

ストップキー56は、MFP100の動作を停止させるキーである。カラースタートキーまたはモノクロスタートキー57は、MFP100の動作を開始させるキーである。

【0043】

フォトナビシート、日付設定、トリミング設定キー58によって、MFP100のフォトナビシート30の機能や日付設定機能等を使用することができる。

【0044】

コピー画質、コピー濃度調整、記録紙サイズ、コピー倍率設定キー59によって、MFP100のコピー画質等の切り替えを行うことができる。OKキー60によって、MFP100の各種設定項目の設定を決定する。ディスプレイ61上に、MFP100の状態や設定項目を表示させることができる。

【0045】

操作パネル8によって、手書き合成が指示されると、アクセス可能な画像データとROM2に記憶されたフォーマットとを読み込み、シートに出力させたい画像をユーザが選択

10

20

30

40

50

(たとえば、日付やファイル番号等)する。そして、ステップS6で、第1出力手段によって、図3に示すようなフォトナビシート30を印刷する。

【0046】

次に、手書き合成シート40は、ステップS5で、何枚の手書きシートが必要であるのかを入力させ、その入力された枚数を、ステップS6で、第2出力手段が出力する。第1出力手段が出力したフォトナビシート30と、第2出力手段が出力した手書きシートとに、必要事項をユーザが記入する。

【0047】

まず、ステップS7で、フォトナビシート30は、印刷条件等の選択領域31に、印刷用紙の種類、フチあり・フチなし、赤目補正するかどうか、自動写真補正するかどうか、顔明るく補正するかどうか、日付印刷するかどうかを選択する。

10

【0048】

次に、アクセス可能な画像のサムネイル画像が表示されている領域32から、印刷する画像を選択し、印刷する画像枚数の選択領域33に、印刷枚数を選択させる。チェックボックス33では、印刷枚数を1枚～3枚までの範囲で選択することができる。

【0049】

手書き合成するかどうか、手書き合成するなら何枚目の手書き合成シート40を使用するのかを選択させる領域34に、手書き合成したい場合に何枚目の手書き合成シート40の画像を合成するかを選択させる。

【0050】

20

実施例1では、画像印刷枚数の選択や、手書き合成シート40の枚数は、1～3枚であるが、枚数に関してはこの限りではない。

【0051】

図11は、手書き合成シート上に配置する選択番号例を示す図である。

【0052】

たとえば、図11に示すように、選択番号を増加させ、選択枚数を増やすようにしてもよく、この逆に減らすようにしてもよい。給紙方法(前面給紙・背面給紙)や、このフォトナビシート30をもう1枚印刷するかどうかを選択させる領域35に、給紙方法を前面から印刷するか、背面から印刷するかを選択させ、このナビシートをもう1枚印刷するかどうかを選択させる。

30

【0053】

次に、手書きナビシート(自由描画領域)の記入を行う。ユーザは、ステップS9で、手書きナビシート40の部分42に合成したい画像(手書き文字や雑誌の切り抜き等)を作成する。上記作成作業を、出力された手書き合成シート40の枚数分、実行する。

【0054】

フォトナビシート30と手書きナビシート40との必要事項の記入が終了したら、フラットベッド用原稿台27または、ADF原稿セット位置21に、原稿28をセットし、シート30を読み取る。原稿のセット方法は、ADFの場合フォトナビシート30が上であり、フォトナビシート30が複数枚ある場合、複数枚のフォトナビシート30の下に、手書き合成シート40を置く。フラットベッドの場合、フォトナビシート30を載せる。

40

【0055】

ステップS10で、ADF原稿セット位置21にシートセットされると、原稿28がセットされたことを、原稿検知センサ22が検知し、カラースタートキーまたはモノクロスタートキー57を押下することによって、読み取りを開始する。

【0056】

ステップS11、S12で、原稿がセットされたことを、原稿検知センサ22が検知しなければ、フラットベッドに置かれている原稿を読み取る。まず、フォトナビシート30を連続して読み取り、光学的にマークを認識させ、ステップS13で、1枚ずつ読み取りデータを解析する。ステップS14で、最初にフォトナビシート30を読み取っているかどうかを判断する。

50

【 0 0 5 7 】

ステップ S 1 5 で、フォトナビシート 3 0 を読み取っていなければ、ステップ S 2 1 で、エラー終了する。ステップ S 1 6 で、フォトナビシート 3 0 に表示されているアクセス可能な画像データ 3 2 の中で、画像を何枚印刷するかを選択し、マークするチェックボックス 3 3 に、チェックされているかどうかを、画像毎に検索する。

【 0 0 5 8 】

検索した結果、チェックボックス 3 3 にチェックがなければ、ステップ S 2 1 で、エラー終了する。チェックボックス 3 3 に、どれか画像 1 枚でもチェックが入っていれば、ステップ S 1 7 で、読み取ったデータ（印刷用紙の種類や各種補正や印刷枚数等）を保存する。

10

【 0 0 5 9 】

ステップ S 1 8 で、次のページがあるかどうかを判断し、A D F の場合、原稿検知センサ 2 2 によって原稿がセットされたことが、検知されれば、次のページを読み取る。

【 0 0 6 0 】

図 1 0 は、フラットベッドで読み取ったときに次ページがあるかどうかを選択させる画面を示す図である。

【 0 0 6 1 】

フラットベッドの場合、図 1 0 に示すように、ステップ S 1 8 で、ディスプレイ 6 1 上で次のページがあるかどうかを選択させ、次ページがあるが選択された場合、次ページを読み取る。

20

【 0 0 6 2 】

また、次ページがあるかどうかの判断は、たとえばバーコード 3 6 のような情報を持った領域で、フォトナビシート 3 0 の何枚目であるのか、最後のシートであることを示す情報を持っていれば、そのマークを検索することによって、判断することができる。

【 0 0 6 3 】

フォトナビシート 3 0 で読み取ったデータの中で、ステップ S 1 9 または S 3 1 で、画像毎の手書き合成をする選択領域にマークがあったにも関わらず、手書き合成シート 4 0 の読み込みが行われなければ、ステップ S 2 1 で、エラー終了とする。

【 0 0 6 4 】

また、ステップ S 2 0 で、画像毎の手書き合成をする選択領域にマークがなければ、画像印刷枚数選択領域で選択された枚数分の画像を、印刷条件に合わせて印刷する。ステップ S 3 2、3 3 で読み取ったデータが、フォトナビシート 3 0 であれば、上記検索を行い、フォトナビシート 3 0 でなければ、手書き合成シート 4 0 を読み込んだかどうかを判断する。

30

【 0 0 6 5 】

手書き合成シート 4 0 でなければ、ステップ S 3 7 で、エラー終了する。ステップ S 3 4、S 3 5 で、手書き合成シート 4 0 であると判断すれば、読み取った内容を、ステップ S 3 6 で一時保存する。ステップ S 3 8 で、次のページがあるかどうかを判断し、A D F である場合、原稿がセットされたことを、原稿検知センサ 2 2 が検知していれば、次のページを読み取る。フラットベッドの場合、ディスプレイ 6 1 上で、次のページがあるかどうかを選択させ、次ページあるが選択された場合、次ページを読み取る。

40

【 0 0 6 6 】

次ページを読み取ったら、上記と同様の検索を行う。最終的に読み取るページがなければ、ステップ S 4 5 で、フォトナビシート 3 0 で読み取って一時保存していたデータと、手書き合成シート 4 0 で読み取ったデータとを合成する。ステップ S 4 1 で、フォトナビシート 3 0 を読み取ったデータの中に、手書き合成する選択領域にマークがないと判断すれば、ステップ S 4 6 で、エラー終了する。手書き合成するかどうかの選択領域にマークがあり、どのシートと合成するか刷り合わせを行う。

【 0 0 6 7 】

たとえば、アクセス可能な画像 A と C と R とでは、ステップ S 4 2 で第 1 の手書き合成

50

シートの画像と合成する指示があり、画像 B と E と M では、ステップ S 4 3 で第 2 の手書き合成シートの画像と合成する指示があった場合を考える。この場合、ステップ S 4 5 で、それぞれの画像でアクセス可能な画像データと手書き合成シート 4 0 に描かれているデータとを合成し、出力する。

【 0 0 6 8 】

上記実施例によれば、アクセス可能な複数枚の画像に、手書き合成シート 4 0 に描画されている画像を容易に合成することができる。

【 0 0 6 9 】

たとえば、A さんには、画像 Z と 1 番の合成画像とを合成し、印刷し、B さんには、画像 Y と 1 番の合成画像とを合成し、印刷し、C さんには、画像 X と 2 番の合成画像とを合成して印刷し、この合成、印刷作業が容易である。

10

【図面の簡単な説明】

【 0 0 7 0 】

【図 1】本発明の実施例 1 である M F P 1 0 0 の回路構成を示すブロック図である。

【図 2】M F P 1 0 0 において、イメージセンサ 7 を含む画像読取部 7 a の概略構成を示す断面図である。

【図 3】M F P 1 0 0 で手書き合成シート出力指示があった場合に出力されるフォトナビシート 3 0 の一例を示す模式図である。

【図 4】M F P 1 0 0 でフォトナビシート 3 0 または手書き合成シート出力指示があった場合に出力される手書き合成シート 4 0 の一例を示す模式図である。

20

【図 5】M F P 1 0 0 の操作パネル 8 の構成を示す図である。

【図 6】上記実施例の動作を示すフローチャートである。

【図 7】上記実施例の動作を示すフローチャートである。

【図 8】上記実施例の動作を示すフローチャートである。

【図 9】上記実施例の動作を示すフローチャートである。

【図 1 0】次ページがあるかどうかを選択させる画面を示す図である。

【図 1 1】手書き合成シート上に配置する選択番号例を示す図である。

【符号の説明】

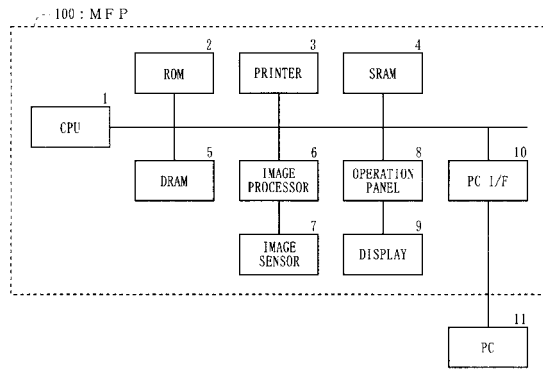
【 0 0 7 1 】

- 1 0 0 ... M F P 、
- 1 ... C P U 、
- 2 ... R O M 、
- 3 ... プリンタ、
- 4 ... S R A M 、
- 5 ... D R A M 、
- 6 ... イメージプロセッサ、
- 7 ... イメージセンサ、
- 8 ... 操作パネル、
- 9 ... ディスプレイ、
- 1 0 ... P C I / F 、
- 1 1 ... P C 、
- 3 0 ... フォトナビシート、
- 4 0 ... 手書き合成シート。

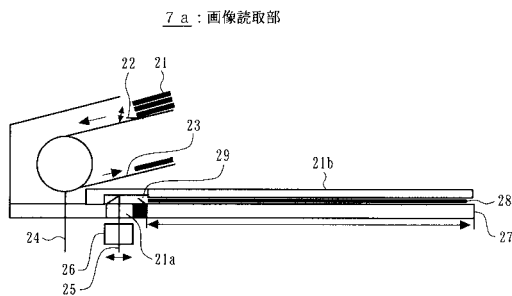
30

40

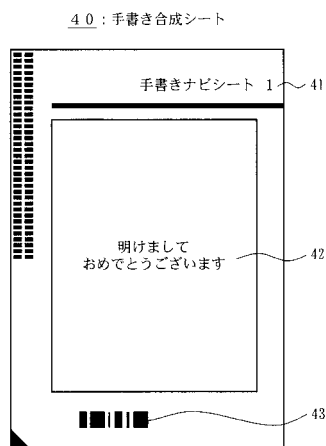
【 図 1 】



【圖 2】



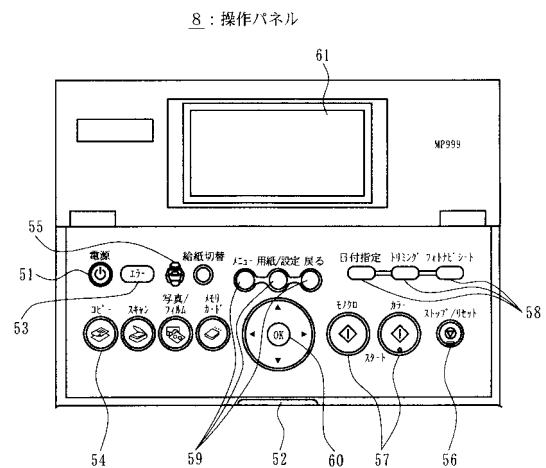
【 図 4 】



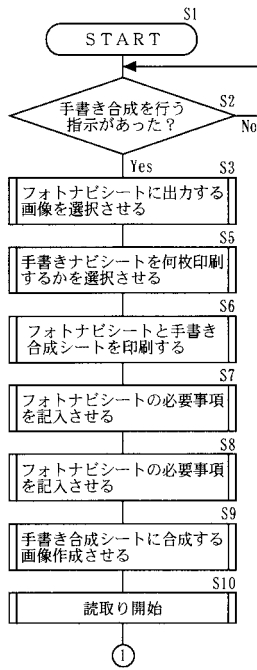
【圖 3】

[illegible]

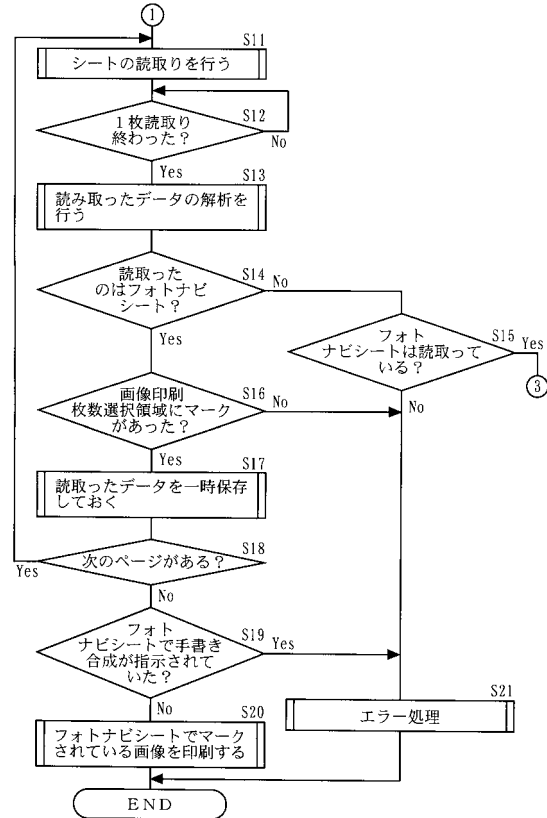
【 図 5 】



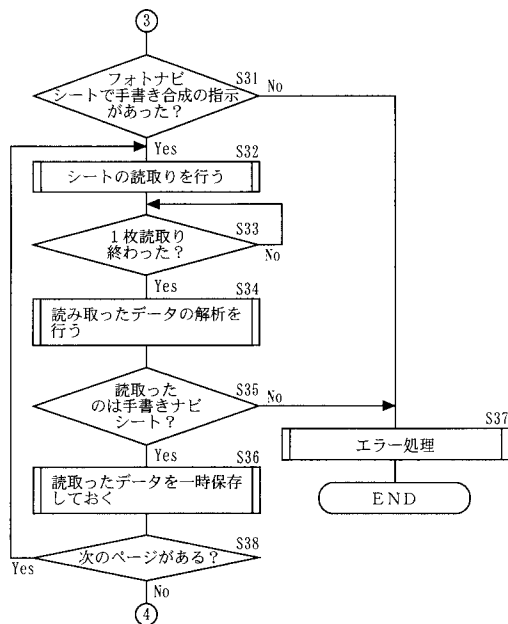
【図 6】



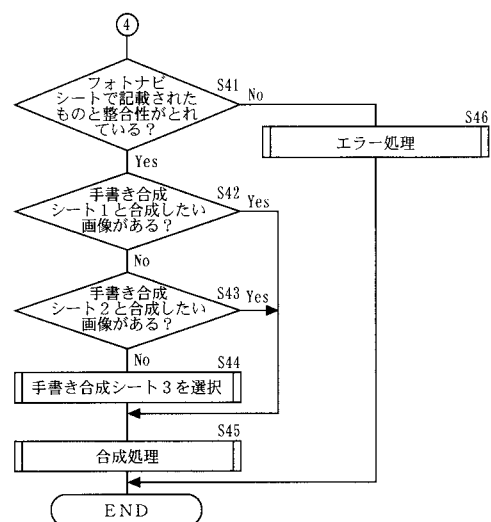
【図 7】



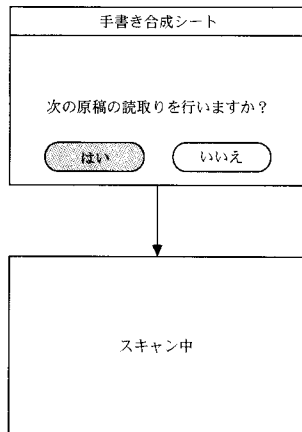
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】

